［研究所記事］

1．本年度の研究所職員

所　長	教　授	工藤　茂
運営委員	教　授	後藤　重巳
〃	〃	黒田健二郎
〃	〃	松本　篤
研 究 員	助教授	仲嶺　真信
〃	〃	利光　正文
〃	〃	友永　植
〃	〃	飯沼　賢司
〃	講　師	坂口　淳志

2．研究所研究講演会

日　時　1995年11月22日（水）10時40分～12時10分
講　演　　中国の民話
講　師　　東京都立大学教授　飯倉照平先生
場　所　　別府大学３号館ホール

3．研究会の開催

昨年に続き，以下のような研究会を持った．

第７回　４月26日　（発表者）　小松雅彦「日本語教育能力検定試験の概要」（於25号館 220番教室）

第８回　６月21日　（発表者）　佐藤孝裕「メソアメリカにおける球戯について」（於25号館220番教室）

4．記　　事

上海の復旦大学創立90周年記念式典に出席のため，別府大学アジア歴史文化研究所長工藤茂と，別府大学国際交流担当宇野世史也の２人が，下記の日程で中国上海に行って来た．

５／26（金）	別大→福岡国際空港→上海空港―歓迎宴会．	藍天賓館　１泊
27（土）	創立90周年記念式典（於・相輝堂）等．	藍天賓館　１泊
28（日）	上海浦東開発区，古城豫園参観．	藍天賓館　１泊
29（月）	上海空港→福岡国際空港→別大	

５月26日（金），上海空港には復旦大学副学長（副学長は大学全体で４人いるという）の施岳群先生と，復旦大学日本研究センターの徐建美先生とが迎えに出てくれていた．徐先生が我々の担当とのことで，先生の案内で車に乗り１時間ちょっとかかって藍天賓館に到着した．

午後５時30分より宝隆賓館において，90周年記念祝賀及び歓迎パーティが行われた．会場は500人ぐらいであろうか．人々でごった返す中，参加した日本の各大学の代表が，各大学から持参したお土産とお祝いを楊福家復旦大学学長に差し上げる．私も復旦大学の通訳の人を

介してお祝いを申し述べ，大学より持参したお土産とお祝いを差し上げる．この挨拶が一段落した後に，会が始まった．楊福家復旦大学学長の挨拶（写真①），菅野（すがの）卓雄東洋大学学長の英語のスピーチ，元通産大臣渡辺代議士の祝辞等があって，カクテルパーティとなった．正面の席には主賓，左右の窓際の席には復旦大学の教授，われわれは中央で立ったままでのパーティであった．

（写真①）

予定では会の終了は7時15分となっていたが，実際には8時30分を過ぎていた．それから上海の一番の繁華街，南京街をバスの窓越しに見学し，藍天賓館に帰ったのは10時過ぎであった．南京街で印象に残ったのは人々が衣裳店に群がっていることだった．これは上海の人々の生活レベルの向上を示すものと思われた．

5月27日（土）午前9時，復旦大学「逸夫楼」前において，机上に広げられた白布に来賓の署名が行われる．黄色い帽子をかぶった男女の学生たちが，嬉々として来賓の案内をしているのが印象に残った．私たちもその白布に大学名を書き，署名する．それからバスでキャンパス内の相輝堂に移る．復旦大学創立90周年記念式典がそこで行われた．

相輝堂は1000人位入る講堂であった．正面壇上奥に，「校章」と「90」の数字をデザインした白地の板に，「慶祝復旦大学九十周年校慶」と赤字で書かれた大きな看板が掲げられていた．壇上には3列の主賓席がしつらえられ，学長を初め主賓が座を占めていた．（写真②）

（写真②）

まず楊福家学長の式辞．これは1905年に建学された復旦大学の歴史を語るものであった．次いで上海人民政府代表（復旦大学出身の女性），上海師範大学の学長，日本の愛知大学学長石井吉也氏等の祝辞があり，80周年記念に寄せる江沢民氏を初めとする各界名士の書が披露された．

式終了後，私たちは復旦大学のキャンパス模型の展示されている学長弁公室を案内された．そこにはまた，日本の各大学から今回贈られた土産，お祝い，記念品や目録が展示されてあった．

キャンパス内をゆっくりと歩いて，私たちはＣＡＳ，つまりアメリカ研究センター新楼に案内された．学内の学生たちの，協力的な態度と，とても明るい表情が印象的であった．ＣＡＳの大ホール（写真③）で昼食が出された．それはたいそう豪華なヴァイキング料理であった．

（写真③）

午後2時からＣＡＳの大ホール脇の広い会議室に於て，当日の第2の目玉である学術研究討論会（写真④・⑤）が行われた．会議室

（写真④）

（写真⑤）

正面には，「校章」と「90」の数字を大きくデザインした赤字の板に，「21世紀対大学人才培養提出的挑戦」と金文字で書かれた大きな看板が掲げられてあった．

まず，楊福家学長の開幕の辞．それは「21世紀の高等教育への挑戦―よき社会への奉仕―」という内容であった．その後，以下のような発表が行われた．

「21世紀と人間性教育」小室金之助　創価大学（日本）

「21世紀の教育事業への挑戦」王邦佐　上海師範大学（中国）

「韓国の高等教育への挑戦」宋天恩　圓光大学（韓国）

「大学の国際化」林雲山　淡江大学（中国台湾）

「未来の高等教育と国際化」野口洋二　早稲田大学（日本）

「21世紀における日本の進むべき道と大学教育」高森八四郎　関西大学（日本）

「21世紀に向けて　愛知大学の中国研究―教学と学術交流―」石井吉也　愛知大学（日本）

「高等教育における教育と学習の質」黄粛亮　香港理工大学（香港）

「世界大学協力体制構築試論」申容俊　漢拏（ハンナ）大学（韓国）

「科学技術教育の国際互換」王兆永　香港浸会大学（香港）

「21世紀へ向けての上海交通大学の発展戦略」蔣秀明　上海交通大学（中国）

以上の他，金在温（米国・アイホア大学），何勤華（中国・華東政法大学），David Vikner（アジア基督教高等教育聯合会・米国）の発表があった．中国語の発表は英語に，英語の発表は中国語に，日本語の発表は中国語によって通訳された．グロウバルな観点による教育，人間性の教育，技術教育の国際互換という主張がその論点になっていたように思う．

その日の夕食は復旦大学の専家食堂で取った．夕食後キャンパス内の達三楼において民族音楽会が催された．これは学生による演奏ではなくプロによるもので，たいそう素晴らしいものであった．中でも「花好月圓」「紫竹調」「京調」「雨打芭蕉」「春江花月夜」「二泉映月」などは心に深くしみた．

5月28日（日）復旦大学の案内で上海市内の以下の各地を見学した．

① 上海市金橋輸出加工区

浦東地区に建設されつつある上海市金橋輸出加工区に案内される．ここは工業区，管理サービス・生活区からなり，工業区は国内外企業の投資・生産の場となるとのこと．そこでは次の業種が奨励されているという．

1）インフラ関連　　2）機械，電子，精密機器　　3）コンピューターとそのソフト

ウェア　4）通信設備　5）機械電子一体化装備　6）軽工業　紡織品，服装　7）医薬品，食品　8）家庭用電気製品，医療機器，日用金型　9）石油化工，精密化学，新型建築材料　10）その他の政府の許可する業種

私たちは上海金橋輸出加工区連合発展有限公司の建物に案内され，21世紀に向けて開発の予定されている同地区の模型（写真⑥・⑦）を見せて貰った．

（写真⑥）

（写真⑦）

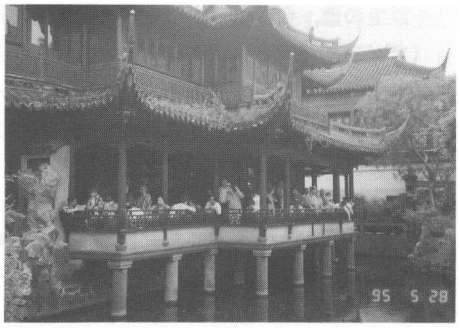
（写真⑧）

② 上海東方明珠広播電視塔

上海東方明珠広播電視塔とは新しく上海に建てられた高さ460数メートルのテレビ塔である．明珠とは真珠のことであるという．入場料が１人50元と高いにも拘らずたいそう多くの人々が入場していた．途中に球形の展望台があり，そこに昇るエレベーターに人々が列をなしていた．（写真⑧）

③ 豫園

豫園は明代（1559年）に造られた私的庭園で，２ヘクタールの広さを持つ．現在「全国重点文物保護単位」に指定されている古い公園である．その公園のすぐ横にある「緑波廊」で私たちは昼食をとった．ここの料理もまた素晴らしいものであった．昼食後案内されて，豫園に入った．中国式の古い建物（写真⑨），軒を這う竜の彫刻，太湖で取れた太湖石の自然石の奇岩を配した庭を楽しんだ．その帰り友誼商店に30分程立ち寄って藍天賓館に帰った．



（写真⑨）

以上で復旦大学創立90周年記念の行事はすべて終了した．翌５月29日（月）私たちは徐先生に送られて上海飛行場に向かい，そこから飛行機で福岡国際飛行場に飛び，無事別府大学に帰り着いたのであった．